THE NA WAY MAGAZINE®

世界中で読まれているナルコティクスアノニマスの定期刊行物

THE INTERNATIONAL JOURNAL OF NARCOTICS ANONYMOUS

APRIL 2010 • VOLUME TWENTY-SEVEN • NUMBER TWO

2010年4月発行／第27号／2号

THE NA Way MAGAZINE

世界中で読まれている
ナルコティクスアノニマスの
定期刊行物

エディター
ド・ジェンキンズ

コピー・エディター
ディヴィッド・ファルク

プロダクション・マネージャー
ファティア・ビロルト

NA Way ワークグループ
ポール・C、アラン・D、マーク・G、
ステファニー・V、スー・H、ティム・S

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジン では、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしている。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールド サービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせください。

NA Way マガジン は、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、**NA Way マガジン** またはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットから**NA Way マガジン**を配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン（*The* NA *Way Magazine*: ISSN 1046-5421）、*NA Way*（*The* NA *Way*）、ナルコティクス アノニマス（Narcotics Anonymous）、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。*NA Way マガジン* は、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社（19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311）によって、年に4回発行される。

編集者から、ひとこと

私もかつて、新しいミーティングを始めたことがある。毎週、毎週、会場にひとりで座っていると、このままだれも来やしないんじゃないかと不安だった。それがやがてグループになり、もっと広い場所に移らざるをえないほどメンバーが増えた。そうして時が移り変わるなか、ホームであるこのグループでミーティングのお終いにみんなが手をつなぐ輪の中に、私は立っていた。大きなお腹を抱え、赤ん坊を腕に抱き、そしていつのまにか足にまとわりつくようになった息子と一緒に、みんなで祈りを唱えた。息子は、もう18歳。平安の祈りはもちろん、どこへ行けばアディクトが助けを見いだせるのかも知っている。

そのような月日を送る間に私が考えていたのは、歴史を作ることでも理想を追求することでもない。私はNAのなかでひたすら現実を生きていた。こうして淡々と努力を重ねることによって私たちの未来は築かれていき、ひいてはNAの未来を築くのだ。やる気と献身、そして信じる心があれば、私たちは歩みだす。回復が必要とされれば、どこであろうとNAメンバーは力を尽くす。NAの創設者（そうせつしゃ）たちのように、私たちが共に取り組むことで変化やさまざまなアイディアが生まれ、それが「私たちの未来像、私たちの将来」をつくりだしていき、世界中のNAが成長していくのだ。

ド・J（エディター）

インターネット版のNA Way マガジン は、印刷されているものでは読めない内容の特集記事がいくつか追加されたことによって、さらに充実したものになっている。インターネット版の予約手続きは、www.naway.org にて受付。

表紙： 背景になっている文章は、WSC2008年の参加者からWSC2010年の参加者に宛てて書かれた手紙の抜粋。

今月号の掲載記事

特集記事
・すべてはここから 3
分かち合い
・編み物をして、書き物をする 5
・どうしてなの、 パパ？
・ハグも選択のひとつ
・かつてどうであって、今どうであるか
・あのまなざし
・それぞれの選択、それぞれの将来
ユーモア 4
・ベーシックフードクグループ 9
・コミック「気の合う仲間」
私たちの未来像、私たちの将来 10
・NAカンボジア、韓国
・Kenya, Maldives
・My Ethiopia home group
第30回WSC
・リージョンの課題、革新、達成の喜び
・ゆかいな数字
ホームグループ紹介 16
カレンダー 18
NAWSの出版物 最新情報 19
Specialty items 20

NA Way マガジン では、読者のみなさんからのお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

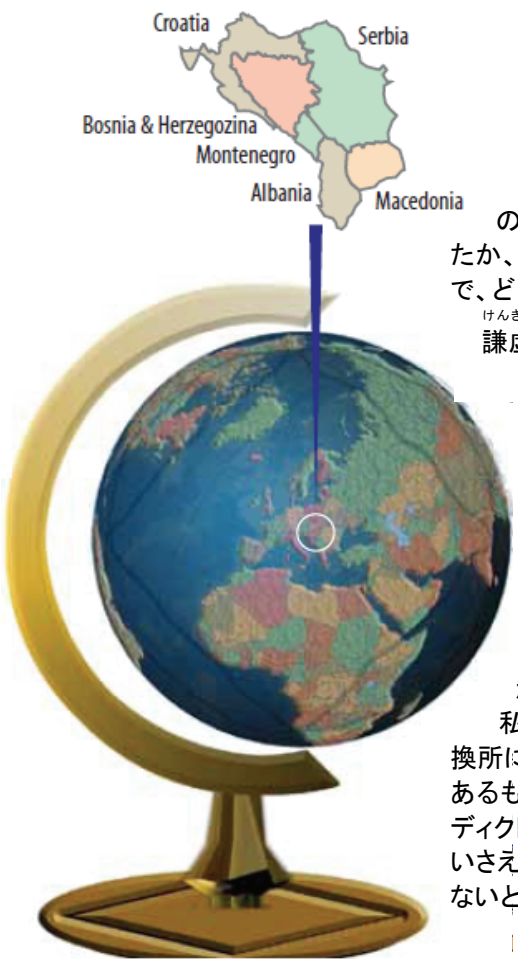
NA Way マガジン は、ナルコティクス アノニマスのメンバーがいることで存在する雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そのような雑誌であるゆえの使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、「アディクトであっても、ドラッグを使うのをやめることはできるし、それによって使いたいという欲求はなくなる。どのようなアディクトであろうと、新たに生きるすべがあるからだ」というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

すべては、これから

私の名前は、ファイク。生まれはマケドニアだが、もう長いことロンドンに住んでいる。クリーンになってからというもの、何度となくハイヤーパワーが働くのを目の当たりにして厳粛な気持ちにさせられてきた。今回のことも、そのひとつだ。

マケドニアには、家族や友人たちを訪ねるために定期的に帰っていることもあって、つねづねNAのメッセージを運びたいと思っていた。まだNAができていなかったからだが、実際には、自分がメッセージを運べるような機会はまずありそうもなかった。そして昨年、私は回復するうえでちょっとした試練のときを過ごしていたので、おもいきって旧ユーゴスラビアをゆっくり旅することにした。まずは、クロアチア、セルビア、モンテネグロと、それぞれのNAにいる仲間を訪ねていった。どれもみな誕生して間もないNAであるというだけでなく、私はある立場でその成長に最初からかかわってきた。

私はアドリア海にそって旅を進め、モンテネグロに着くと、そこのミーティングに出席した。ここにグループができたのは、ひとりのアディクトがNAの効果について詳しく書かれた本をもっていたことに端を発する。このアディクトは解毒治療を終えたばかりであったが、その本を頼りにして、NAのことや使わないで生きるすべがあるということを他のアディクトたちに伝えたのだ。そして、とりあえずはメンバーの寝室や居間でミーティングが行われ、しばらくそのようなかたちで続けていくうちに、現在のミーティング場が見つかった。



そこにいる間、私はある家族のところに滞在していた。息子が使っているアディクトで、両親はNAのことを知っていた。しかも母親の方は、何人かのNAメンバーの助けを借りて親のグループをつくり、みんなで息子や娘の薬物使用にきちんと向き合うためにNAの12ステップを使っていた。この母親が、ステップ1をどうやって理解したか、そして無力さやハイヤーパワーなどの意味することがのみ込めるまで、どのように怒り狂っていたかと、自ら語る話を聞いていると、なんとも謙虚な気持ちにさせられる。

それからひと月ほど旅して、私はマケドニアに着いた。ひとまず落ち着いたところで、注射器交換所（註：国によっては、血液からうつる病気を防ぐために、新しい注射器を無料で配る施設がある）にいるアディクトたちを訪ねて行った。注射器交換所は3カ所あり、それぞれマケドニア人、アルバニア人、ロマ・ジプシーによって利用されている。このような場所で目にする光景は今さら驚くに値しないとはいえ、なんとも薄ら寒いものだ。ここにいるアディクトたちは、最前線からやって来たばかりのように見え、そのなかには10歳か11歳にしてすでに立派なアディクトになっている子どもたちがいる。

私はどういう結果になるかわからないなりにも、この3カ所の注射器交換所に通ってNAのメッセージを運び続けた。そのなかで何人かは聞く耳のあるものがいて、NAのことをまったく知らなくても、私が自分たちと同じアディクトだということはわかってくれた。それでも、使うのをやめたいという願いさえあれば自分たちもクリーンになれるということも、NAには会費がいらないということも、信じられないでいた。私は、NAメンバーたちがしているこ

とをし続けた。つまり、ありのままにして、あきらめずにベストを尽くせるようにハイヤーパワーにゆだねていたというわけだ。

そして、私がここにいる7日ほどの間に、みんなでミーティングを開こうということになった。2009年10月12日、火曜の午前11：00、マケドニアで初めてのミーティングが開かれた。出席したアディクトは、たったひとり。「ああ、やっぱりダメか」と思ったが、だからといってミーティングをやめようとはしなかった。現実とはそういうものだし、こういう現実があってNAは続いていきたのだとわかっていたからだ。私たちはその日のうちに、木曜にもう一度ミーティングを開く段取りをつけた。このミーティングには、6人やってきた。国家は、内戦の名残である宗教線によって分断されてしまったが、ミーティングには境界など存在しなかった。マケドニア人とアルバニア人が席を並べて、使っているアディクトでなければわからない絶望感を分かち合っていた。こうなれば、もう大丈夫。みんな、その部屋には何かが起こっているとわかったからだ。

それから残りあと3日というところで、翌日の金曜の夜にもう一度ミーティングが開かれることになった。しかし、この時点で、私は自分の話をし尽くしてしまっていた。NAには私のほかにもクリーンになったアディクトがいるのだから、その事実を、みんなに知ってもらいたかった。そして、金曜のミーティングは例の注射器交換所のオフィスで開かれたのだが、そこにあるコンピュータはVoIP（インターネット通信によってテレビ会議などができる技術）が使えるようになっているではないか。よし！これを使えば、ロンドンにいるNAの仲間をひとりつかまえて、ここのミーティングで話してもらうことも不可能ではないだろう。私は何人かに電話をし、eメールを何通か送った。こうして、第1回目のテレビ ミーティングを行う準備が整った。当日の夜、スコピエ（マケドニア共和国）で開かれたミーティングには、NAの仲間が8人参加していた。ロンドンから3人、ベオグラードから2人、クロアチアから1人、さらにモンテネグロから1人。まったく、すごいことになった。今こうして書いていても、うなじの毛が逆立つ。

私たちは、火曜と金曜にミーティングをすることにした。インターネット経由でやってみて、どうなるか様子をみることにしたのだ。それから2、3日して、私はロンドンに帰った。ロンドンで、ミーティングのスピーカーになってくれるメンバーを探し始めると、多くの仲間がこのグループに参加して私たちを応援してくれた。それ以来、信じられない歩みがつづいている。本音を言うと、旧ユーゴの連中にこの歩みを続けていく気があるのかどうか、心もとない感じがした。しかし、連中はミーティングに足を運び続けたし、使うのをやめようともがいているアディクトたちのために本当に良くやっている。今では、英国、アムステルダム、デンマーク、アメリカ合衆国、モスクワ、ブルガリアのほか、クロアチア、セルビア、モンテネグロからもアディクトが続々と名乗りを上げ、回復のメッセージを運ぶことに参加している。このようなアディクトの一部は孤立しているため、ここに参加することが仲間と出会う唯一の方法になっているのだ。

今は、みんなで、サラエボ（ボスニア）で今週（2010年1月15日）開かれるコンベンションに行く準備を進めているところだ。マケドニアのNAからも仲間が3人来ることになっているが、連中は待ちきれないでいる。コンベンションに向けてエネルギーが高まるばかりだ。戦争によって荒れ果ててしまったこのサラエボという街で、NAによってもたらされた回復を心から喜び分かち合うために、旧ユーゴスラビア共和国のあらゆる地域からアディクトが集まって来るのだ。当日は、英国の仲間も大勢来るうえ、ハンガリーの仲間も何人か来る。そしてニューヨークからは、すごい仲間が2人もやって来る。そのほかにも、コンベンションの費用をまかなえない新しい仲間たちのために、みんなで募金をしたところ、10人を超えるアディクトがコンベンションに参加できるだけの金額に達した。なにもかも、このナルコティクス アノニマスという素晴らしい仲間の集まりがあってのことと感謝している。私たちはもう使うことができなくても、

Postscript
追伸

クロアチアにはトローギルという美しい古都がある。そこで開かれたリカバリーミーティングに初めて出席したとき、同行した仲間の何人かが完全に薬物を断つという考え方について話をした。ここのNAは活動を初めて数年経っていたのだが、それでも、そのような考え方があることを知ってメンバーたちはショックを受けていた。それから3年半。かなり多くのメンバーがクリーンになり、トローギルのNAは成長し続けている。そして昨年の8月、セルビアのベオグラードにあるNAは初めてのコンベンションを開催し、私たちの多くが参加した。ここのNAもまた成長しつつあり、完全に薬物を断つことでこのプログラムを実践している。同じNAの仲間であるクロアチアのアディクトたちが経験したことから学んでいるのだ。

SHARING

分かち合い

編み物をして、書き物をする

編み棒を動かし、表編、裏編み、と編んでいく。それがすんだら祈りを捧げ、恨みつらみ、恐怖や不安、自分のいいところなどを書いていく。NAにつながって回復の道を歩んではきたけれど、振り返ればその間もずっと、わたしは欠点と不健康な人間関係という回転扉の中にいたのだ。それでもNAの12ステップに取り組んでいくうちに、わたしにも気づきがもたらされた。すべてが変わり、あらゆる面で自由になれるのだ。わたしはこれを境に、スポンサー（わたしは「知恵袋」と呼んだりしている）の助けを借りながら、母親との関係に重点を置いて4番目のステップに取り組んできた。だがこの期に及んでもなお、恐怖心によってあれこれ迷いが生じてしまい、この不健康な関係を断ち切ることができないでいた。でも、その行き着く先には苦痛と失望感しかない。だから、わたしはこうして歩み出すのだ。

まるで、学年が始まる前に本やノートやペンをそろえる新入生のようだが、わたしはこのステップにとりかかるために必要な道具を一つ一つそろえていくことで、心の準備をした。そして、買ったばかりのごく普通の日記帳を取り出して、悩む。ママのことで言うに言えない邪悪な感情をびっちり書き込むには、これでも立派すぎるんじゃないかしら。でも、そう考えることでむしろ、この日記帳には母のことを「包み込む」だけの品格があるのではないかという気がしてきた。わたしは、本棚から『ナルコティクス アノニマスのステップワーキングガイド』をもって来ると、ペンを手にとる。自分のハイヤーパワーが現れるのを待ち、正直になる強さを与えてくださいと祈って、書き始めた。

そして、気づく。自分は変わることも、許すことも、受け入れることもできるのだ。こうやってはっきりしてしまうと、ショックを和らげるために一歩退く必要があった。そのときになって、今回はまだ4番目のステップに取り組む準備ができていないと思った。そこで、スポンサーがよく言っている「頭を切り換えて、筋肉を動かす」ということについて考えた。そうか、今は筋肉を動かす時なのだろう。わたしは車を走らせ、手芸店にいった。編み図を一枚、毛糸の束、編み棒を何本か手にして、作品のイメージをふくらませる。そして家に帰り、編みものにとりかかった。編み棒を動かし、表編、裏編み、と編んでいく。編み図に書かれているとおりに一段一段編み進め、手が痛くなったところでやめる。そうやって中断する直前のほんのわずかの瞬間でしかなかったが、一段編むごとに、このグリーンの毛糸玉が見事な作品になっていくのがわかった。作業の進み具合がみてとれるのだから、あとはすてきなジャケットができることを考えていればよかった。絶対に、これを仕上げよう。そうすれば、自分の労働の結果を楽しめるのだ。

そうして編み棒を動かし、表編、裏編み、と編んでいきながら、ママのことを考えた。恐怖や恨みと分かちがたく生きてきたこれまでの年月が、脳裏をよぎる。さぁ、編みものを下において、書く作業に戻る時だ。ペンを動かしながら、編み物をするのと同じように仕上がりについて考えた。これまでずっと、本当にあまりにも長いあいだ秘めていたので、自分でも自覚できないでいた苦痛や邪悪な感情。そういうものから解き放たれて、自由になった姿を想像した。しかもよくよく考えれば、母を素直に受け入れることができるのは、なんとありがたいことだろう。わたしはペンを動かし、ひとつひとつの質問にきちんと取り組む。自由への扉は、正直さのなかにあるとわかっていたからだ。苦痛や気づきがあまりにも大きくなりすぎたら、日記帳を閉じ、編みものを取り上げる。こうして編み物をすることがはけ口になり、今回の4番目のステップではすべてがさらけ出されていく。どちらに取り組むかは、そのとき次第で決める。一組の編み棒とグリーンの毛糸玉の横にはいつも、ブルーの模造革の日記帳があった。こうしてわたしは、母との関係だけでなく、自分のことや、自分の行動の動機となるものについても気づきを重ねていった。それによってわたしの目は開かれ、人生観まで変わってしまったと言っても過言ではない。

なにもかも、どこかでつながっている。その証拠に、今回、母に関して心から正直な棚卸をしながら、わたしは以前にも増して、自分がひとりの母親としてなすべきことを自覚するようになった。回復には、つねに発見がある。今回も、わたしがひとりの娘としての役割に取り組むうちに、自分のなかから母親であろうとする力が生まれ、それがわたしと息子との間にあたたかいものを生み出していたのだ。わたしは自分の抱える葛藤がけっして自分だけのものでは

ないことがわかった。それがわからないばかりに、息子にまで自分の葛藤を背負わせようとしていたのだ。10年近い回復を経て、はじめて、わたしは手放すことができた。

子育てというのは、これまで自分がしたことのなかでも最もやっかいな仕事のひとつだ。それはわたしの感情をゆり動かす。感謝してもらえるとはかぎらないし、いつだってこれでいいのかと悩むからだ。わたしが編みものと書きものをしているかたわらには、つねに息子がいる。その息子が、編みものを教えてくれとせがむので、わたしたちは寝るまでの間、いっしょに座ってテレビを見ながら編みものをするのだ。わたしが自分の棚卸と編みものに取り組むのにあわせて、息子もとりつかれたようにひたすら初めての作品である帽子に取り組んでいる。

この4番目のステップは、長年にわたって痛みを生じさせた物ごとから自由になったということでは、わたし自身に恵みをもたらした。だがそれは、自分がついに母という人間を認めたということであり、母にとっても恵みなのだ。しかも、それによって自分がもっと思いやりのある良い母親になろうと努力し、息子をあるがままに受け入れることにもなったのだから、息子にとっても恵みになった。そして、気づき、許し、世界の見方が変わるものでもあった。コットンの毛糸玉からはグリーンのジャケットができあがっている。息子は初心者なりにもなんとか白と青の帽子を編み上げた。スポンサーとスポンシーとの関係も、信頼と愛がなければ成立しないことがわかった。どれもみな、回復のなせる技にほかならない。だから、なぜ自分がミーティングやサービス委員会に出席するのかということもわかる。そうやって、わたしたちは希望を伝え、自由になっていくのだ。

ジェニー・D（アメリカ合衆国／カリフォルニア）

どうしてなの、パパ?

俺が使うようになったのは12歳のときだ。それから36年間、使っていた。クリーンになったのは、2006年の2月20日。回復しようと思えばチャンスはいくらでもあったが、変わるのはまっぴらだった。俺の人生に起きたことなんて、NAの仲間ならたいていが経験してるようなことだ。それでも、アディクトが回復に向かうために何が必要かとなれば、まさに十人十色で、ひとりひとりちがうとも言える。俺の場合は、悲惨な出来ごとが何度かあって、11歳の息子がこう言わざるをえなかったんだ。「パパ、どうしてこんな目に合わなくちゃいけないの？」

俺は、使うのをやめてもっとましな父親になる努力をしようと思った。それで、何でもいい、だれでもいいから、使うのをやめさせてくれと祈ったんだが、どんなに頑張っても使うのをやめることができなかった。そんなある日、息子と二人で野球場に向かって歩いていたら、突然、酔っ払い運転の車が側道に突っ込んできたんだ。かろうじて息子は無事だったものの、俺はひかれしまった。運転手は、俺の知り合いで、使っているやつだった。ドラッグを分けてやらなかったことに腹を立てていたもんで、最初から俺をひくつもりだったんだ。

俺の両足はグシャグシャだった。87日間入院し、退院してからも一年間は寝返りも打てず、痛み止めの薬を飲んで無駄に過ごすことになった。その間に18回も外科手術を受け、このままでは左足をなくす恐れがあった。俺は処方された痛み止めと交換で、常用していた薬物を手に入れていたから、体はまったく回復しなかった。

モーテルで暮らしてクスリ漬けになりながらも、息子のために使うのをやめたいとは思っていた。そしてNAにつながり、足がどんなに痛もうと使うことはなくなった。NAのミーティングに出るようになってひと月ほど経ったころ、金が払えなくても喜んで助けてくれようとする外科医が現れた。おかげで俺は足を失わずにすんだが、医者からは、それも俺が使わないで生きてこそのことだから、助かったことを無駄にするなと言われた。俺は、息子とこの医者にもう使わないと約束した。

そして、ある日曜。すでに夜が明けようとしているのにパーティーの騒ぎが続いていて、息子は寝つけないでいた。しかも、騒いでいる連中がドアをノックして、俺にも参加しろと誘いかけてきた。それでも、俺は使わなかった。俺は見上げる息子の目を見つめて、この前のように祈りを唱えた。何でもいい、だれでもいいから、「この薄汚い穴ぐらのようなところから俺と息子を救い出してくれ」

それから1時間もしないうちに、火事があり、モーテルは焼けてなくなってしまった。これでまた、ホームレスだ。一応、救援機関から300ドルが支給され、別のひどいモーテルに3日間泊まれることになった。だが、先月は毎日NAのミーティングに出ていたこともあって、仲間のひとりが「二人とも、いっそのこと俺のところに来いよ」と言ってくれた。それからは、毎日、この仲間といっしょにミーティングに出かけた。

この仲間のやっかいになっているあいだに、俺は最後の手術を受けた。もちろん、担当の外科医には、自分がアディクトであると伝えた。それでもこの医者は、あくまでも外科手術を行うのだから、病院で処方した鎮痛剤を点滴で投与すると言って譲らなかった。そうでないと、ショック状態に陥ると言うのだ。俺はこの鎮痛剤と大格闘をしたが、それも3日後には何種類かの経口の鎮痛剤によって解放された。

足にプレートとネジがいくつも埋め込まれて、ひどく痛んだが、俺にはアディクションの怖さがわかっていた。だから、受け入れるというNAの原理を実践することで、肉体的な痛みと折り合うことを学んだんだ。自分がアディクトであるという事実を受け入れたのだから、俺にはこの痛みをどうすることもできない。こういう現実をあるがままに受け入れて無駄な抵抗をしなくなると、痛みは癒されていった。今では、そう長い距離でなければ走れないこともない。痛みなんて「たいしたことじゃない」からだ。

こうして俺の祈りはかなえられたし、一瞬たりとも孤立無援ではなくなった。今では俺も、スポンサーとステップに取り組むことによって、息子と自分についてかなり多くのことを学んだ。ハイヤーパワーについても学んだし、スピリチュアルであるためにはどうすればいいのかということについても学んだ。息子は高校生になり、ついこのあいだは自主研究の課題で優等賞をもらったし、学校では全科目で「A」を取っている。俺は今でも例の仲間のところにやっかいになっている。俺たちは本当に仲の良い友人になったんだ。

これまでNAを支えてきてくれた仲間たちには、お礼を言いたい。そのおかげで、俺も回復できるんだからな。NAがなかったら、心と体の痛みが癒されることもなかっただろう。息子は、「NAがあったから、ボクは父さんを失わずにいられたんだ。本当にありがたいよ」と言っている。俺もこれからずっと、このNAという仲間の集まりのために尽くしていくつもりだ。

デイヴィッド・G（アメリカ合衆国／ノースカロライナ）

ハグも選択のひとつ

やぁ、はじめまして。僕はヘンリー・C。1996年の2月1日にクリーンになった。そして今年の2月には、14年に及ぶ回復を祝うことができた。それも、仲間に助けられてのことだ。

僕は、NAのイベントやミーティングでハグをしないことにしているのだが、そういう僕のことをわかってくれる仲間もいる。とはいえ、これを書くのには1年待つことになった。C型肝炎で治療を受けていたため、思いやりと配慮のある観点から書けるようなスピリチュアルな状態にはなっていなかったのだ。僕は親友でもあるスポンサーと話し合い、自分のハイヤーパワーにもうかがいを立て、じっくりと時期を見はからうことにした。自分のハイヤーパワーと意識的なふれあいをもったうえで、そこから明確なメッセージを感じ取れるようになるまで、いやというほど黙想をした。すると、なんと先週の日曜に、ホームグループで待ちに待ったメッセージが僕のところに届いたのだ。これでもう、ハグをしないという僕の選択にまつわる思いと、僕がそれを選択のひとつに他ならないと思っている理由を話してもよいだろう。

あるところに、親戚のひとりから繰り返し虐待されている子どもがいた。その子は、自分が受けている虐待のことを口にするのが怖かった。その子の家族は、その親戚の家をよく訪れていたからで、そうやって行くと必ず、その親戚の男は自分が虐待している子どもをやさしく抱きしめるのだった。その子は拒否しようとしたが、両親は虐待のことを知らないので、ハグしてもらいなさいと言い聞かせた。時は流れ、その子は大人になって、NAのミーティングに参加するようになっていた。そこでは、みんながその男性をハグしようとした。ハグに応じないと、なんだかんだと言われたり聞かれたりした。その男性はハグされることに対してまだ心の準備ができていなかったのだから、断るのは当然だし、ハグに応じないからといってそのことを問題にされるいわれはないのだ。

仲間であっても、みんながみんなお互い身の上を知っているわけではない。僕は、この子のようなひどい目にあったわけではないが、この男性と同じ思いをしている。だれともハグしたがらないでいると、「どうしたんだ？　何でハグを嫌がるんだ？」と聞かれる。僕は、そんなふうに誰かの身体にむやみに近づくことを、スピリチュアリティと結びつけて考えることができない。ハグをするときには、人の個人的な領域に踏み込んでいるのだから、ハグしてもいいかとか、ハグしてほしいとか、まず相手に了解を求めてしかるべきではないのか。そんなことを、説明しなければならないというのが信じられなかった。そもそも、よるとさわるとハグするっていうのがどうも嫌なんだ。そこで僕は考えるようになった。ハグをするというのは義務のひとつなのだろうか。僕は何か間違ったことをしているのか。それとも僕はNAの一員になっていないのか。

人との触れ合いがスピリチュアルな面で重要だということも、アディクトにはもともと孤立癖があることも、僕だってわからないわけではない。リラプスしていたとき、僕は家の地下室に立てこもっていた。そこに仲間がひとりやってきて、僕を地下室から連れ出してくれた。その仲間は、僕がもう助からないかもしれないと思い、こうしてハグしていてもいいかと尋ねた。まさにそのとき、僕は自分が人間であり、必要とされていて、価値のある存在だと感じた。

すでに述べたように、ホームのミーティングのあとで、僕はこれを書こうという気にさせられた。ひとりの仲間がひどく苦しんでいたんだ。アディクション以外にもいろいろな病気があって、どうすることもできないようだった。こうなると、自分を傷つけかねないし、死ぬこともある。僕はそれが怖かったので、ミーティングが終わってからこの仲間とゆっくり話をした。それでも、この仲間の動揺はおさまらなかった。そこで僕は、自分なりに思うところがあってハグをしないと決めてから一年以上になると話した。だが、言葉では伝えきれなかったため、ベーシックテキストを開き、ハグを申し出ることについて書かれた文章を読んで聞かせた。それは、まさにスピリチュアルな瞬間だった。僕はハグしてもいいかなと尋ね、この仲間は「うん」と答えた。この仲間は泣きながらありがとうと言い、それを待つまでもなく、僕の口からもありがとうという言葉が出た。こうしてハグしたことが、この仲間にも効果があるようにと願ってやまない。だって僕は、自分がそれで助かったのを知っているからだ。そして1週間後。僕は、この仲間が再出発を祝っているのを目にした。

僕は、事あるごとにハグをする必要などないとわかっている。だが、ハグが好きで千回でもハグしたいというのであれば、それもまた自由だ。僕は、ハグについても自分のハイヤーパワーが決めることだと思っているので、その時期を見計らうことにする。

ヘンリー・C（カナダ／オンタリオ）

「ドラッグがなくても、ハグがある」はスローガンであり、NAの文献の一部ではない。ハグのことは、NAの文献の中でも何度か言及されている。それはハグの精神によってアディクトが助かることもあるからだ。そのような精神から生まれる行為は、要求されたり期待されたりするものではない。

かつてどうであって今どうであるか

2009年10月4日。クスリなしの人生が11年目を迎えた。しかも、あたしは感謝している。

クスリに溺れていた頃のあたしは、最後には死ぬことばかり考えていた。病院やクリニックを転々とし、あちこちの教会や治療師のところにも連れていかれた。いろんな種類のセラピーも受けてみた。それだけのことをしても、何ひとつ、あたしには効果がなかった。どうしてなのか、説明できない。なにしろ、心からやめたいと願うことなど、あった試しがなかったのだから。

クスリなしでどう生きればいいのかわからなかったし、クスリがないのにうまくやっていくなんて想像もできなかった。そんなあたしがちょっとでも使わないでいたことがあるとすれば、最初に書いた援助機関のどれかにお世話になったからで、それだっていつも虚しくてたまらなくなるばかりだった。

あたしはどうしようもなくシラケきっていて、自分のことも、自分がしでかしたことも、何もかもがどうでもよかった。この世から消えてしまうことしか考えられなかったし、だからといって自殺する勇気もなかったから、きっと使って死ぬんだろうと思っていた。

それが、なぜかは説明できないけど、ある日、あたしはやめたいと思った。だから、あたしは神を信じる。だって、あたしのように、死ぬか、さもなければクスリの奴隷でいるか、そんなことしか望んでいなかった人間が、ある日やめようと思い立ったのよ。神を信じないでいられるわけがないじゃない。なにしろこのろくでもない人生には終りがないっていうのに、クスリがそんなに長いあいだ効かなくなっていたんだから、さすがのあたしにもそれがどういうことかよくわかったのよね。そうなると、残された道は2つしかなかった。クリーンになるか、もがき苦しんで死ぬか。使うのをやめたいと願ったのは、そのときだった。あたしは第一歩を踏み出し、これで助かったと思った。

自分はもう使うことはできないし、助けが必要なのだから抵抗をやめなくてはいけない。このような事実を認めるのはすごく苦しかったけど、これまでの

ような苦しさではなかった。この苦しみには大きな安堵感があったのよ。

クリーンになってしばらくすると、あたしもやっぱり生きたいと思うようになった。自分がどういう生き方をしたいのかということも、ゆっくりだけど徐々に見えてきた。一日、一日、少しずつ、これまでとの違いに気づくようになっていった。みんなが、あたしは悪い人間じゃない、病人なんだから回復できると言ってくれた。そして、あたしには存在する価値があるし、あたしを愛している神がいるとも言われた。あたしは、本当にろくでなしで落ちるところまで落ちた人間だ。それでも、やはり神は愛してくれてただなんて、ふざけるにもほどがある。でも本当のところ、あたしは何もわかっちゃいなかったし、神とはそんな健全なかかわりが持てる状態じゃなかったけれど、心の奥底では神を信じていたんだと思う。神はあたしを愛してくれただけでなく、守ってくれてもいた。だからこれからも、あたしが自分ではできなかったことを、あたしに代わってやってくださるだろう。

とまぁ、あたしの過去と現在はそんなところ。NAには、あたしと同じような思いをしてきて、あたしを信じて喜んで助けようとしてくれる人たちがいる。神は、あたしをそういう仲間の中においてくれた。NAとあたしたちみんながこの愛の神に見守られ、歩みをとめないでいられたらいいなって思うわ。

マリア・イザベル・G（ウルグアイ／モンテビデオ）

あのまなざし

私は、2000年の11月にNAを紹介された。この時点でもう、NA以外に助かるすべがなくなっていたのに、自分ならぜったいにうまくやれると思っていた。だから、NAにどどまりはしなかったが、そのとき参加したミーティングには心にひっかかるものがあった。それは、そこに集まっているアディクトたちの目に宿っていたものだ。安らぎと平安、あるいは落ち着きと希望だろうか。私にはわからない。NAではごく当たり前のものになっている「あのまなざし」を説明する言葉は、それ以来どうしても見つからなかった。

それから2ヶ月後。私は当時の婚約者によって解毒治療の施設に入れられてしまった。治療を終えてそこを出ると、あのミーティングやNAで私の心をとらえたものを探し求めた。市内にあるいろいろなミーティングに足を運んで、あのようなまなざしをしたメンバーたちのそばにへばりついていた。そうするうちに、その実像がつかめた。この人たちはつねに協力を惜しまず、自分たちのグループやリージョンの機関で信頼されるしもべになっていたのだ。そして特筆すべきは、自分たちの家族と交わした約束をきちんと守ろうとしていることだった。

NAにつながったばかりの私は、とにかくできるかぎりサービスをして、この人たちと接しているようにした。まず、ホームグループで手を上げてはじめて役割をやり、それ以降もNA全体のためにいろいろなサービスに関わることになった。そのなかでも、ホームグループのためにするサービスとイベントに関するサービスには、もっともやりがいを感じている。また、回復という旅の途中では、スポンサーが3人できた。3人とも、サービスについて多くのことを教えてくれ、ステップのことや人生のことでも力になってくれた。

私は、できるだけ多くのミーティングに足を運んではいるが、ひとりの市民として生きることがおろそかにならないようにいつも心がけている。そうして回復の道を歩みながら、2003年の5月には、自分のハイヤーパワーのはからいで私にもっともふさわしい相手と結婚した。2006年の11月には故郷の大学で学位を取った。さらに2007年の7月には、もうひとつのギフトとして、私は息子を授かった。息子は今、これを書いている私の横にいて、おもちゃの車で遊んでいる。というより、息子がいるから、私はこうして文章を書いてみようという気にさせられたのかもしれない。そして、ほんの少し前のことだ。息子は遊んでいて、私はNA Wayの最新号を読んでいた。その間に、私はバスルームに行って、顔を洗った。すると、ちょうど24時間前まで、ほかの人たちの顔に探し求めていたまなざしが鏡の中にあったのだ。なるほど、そういうことか。私が人生のあらゆる領域でNAの原理を実践しながら、ステップをひとつひとつ踏んでいく結果として「スピリチュアルな目覚め」を体験したのであれば、そしてそのことを、もうひとりのアディクトにメッセージとして運ぼうとしていれば、私はかつて自分が夢に描いていたものをすべて手にするのだ。だが、それはどれひとつをとっても、仲間のおかげであり、仲間と分かち合うものだ。こうして私は、人生を別の視点から眺める。そうなったらもう、私も「あのまなざし」をしているのだ。

シドニー・L（ブラジル／ジュンダイ）

それぞれの選択
それぞれの将来

ぼくにとっての回復とは、賢明な選択をして、なおかつ自分でそういう選択をした理由がわかっているということに他ならない。ホームグループの選択にしても、今のぼくには単にグループを選ぶということ以上の意味を持つようになった。ぼくは、ホームがあった方が便利というだけで決めたわけではない。グループのメンバーたちが重ねたクリーンタイムがかなりの年数であったことも、決める理由になった。

ぼくはようやく、実践と理論を両立させるのが回復だと理解するようになった。ぼくが回復をうわべだけのものに終わらせないためには、次のようなことが必要だと思っている。使うのをやめたいと願い、回復のために自分がすべきことをよく理解すること。そして回復に必要な道具を手にして、つねにこの道具をしっかり使っていこうという意欲をもつこと。

こういうことは、何であれ、自分がやってみようと思っていることにも当てはまる。ぼくの場合は、テニスで上達すること。そのためにはまず、テニスをやりたいという欲求がなくてはならない。テニスという競技についても、ルールと型に関して基本的なことを理解する必要がある（たとえば、テニスコートに引かれたラインの意味、ラケットの持ち方、サーブの打ち方など）。練習もしなくてはいけない。そこで重要なのは、自分より上手な人たちとプレーすることだ。これによって、ぼくは本気になって頑張ろうとするし、全力でプレーしようと必死になるだろう。このような気持ちになってプレーしていると、自分がこれまで使ったことのない能力が磨かれていく。たとえば、助けを求めることや指示に従うことができるようになる。こうしてテニスが上手くなるにつれて、もっと上を目指して続けようと意欲的になっていく。そしてまた、自分より未熟な人たちとプレーすることも、まちがいなく良い経験になる。忍耐が学べるだけでなく、なんとか人の役に立ちたいと思うようになるので、「自分が手にしているものは、手放さないかぎり自分のものにはならない」という言葉を真の意味で理解することができる。つまり、自分がこれまで使ったことのない能力が磨かれるということでは、上手な人たちとプレーするのと同じくらい重要なことなのだ。

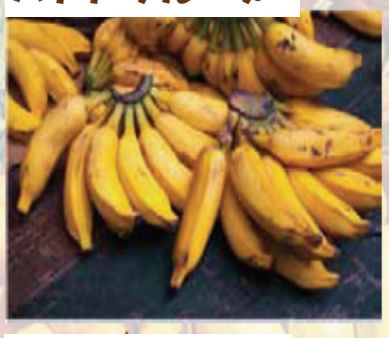
ぼくはこれまで、ホームグループを選ぶといういたって簡単なことを、真剣に考えてみようとはしなかった。これは、自分の回復の度合いを決めるということでは、実に多方面に影響を及ぼしかねない選択になるのだ。ぼくは幸いにして、これこそが自分の信じる回復だという状態をこの目で見てきたので、自分なりにそのような回復の基準を設けてきた。真実は、きわめて現実的なやり方で語られるものだ。それによってぼくは、今こうして生きるうえで自分が決めることについても、賢明な選択をしたいと望むことについても、内省を重ねることが多くなったのだ。

ケビン・V（カナダ／オンタリオ）

Basic Food Groups

どのグループも、自分たちのことは自分たちで決めている。もちろん、グループの名前を決めることも例外ではない。ここでは、回復への意欲をそそりそうな名前のグループをいくつか紹介しよう。

バナナ グループ

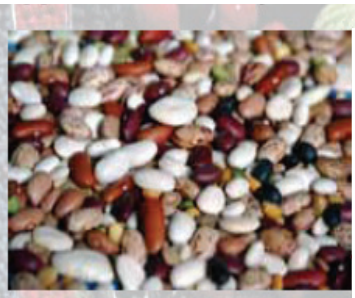


クールエイド

フェローシップグループ

カプチーノ グループ

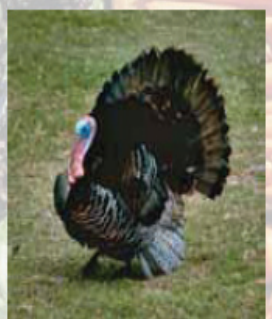
クッキーズ アノニマス グループ



クールビーンズグループ

チェリーグループ

カウチポテト グループ



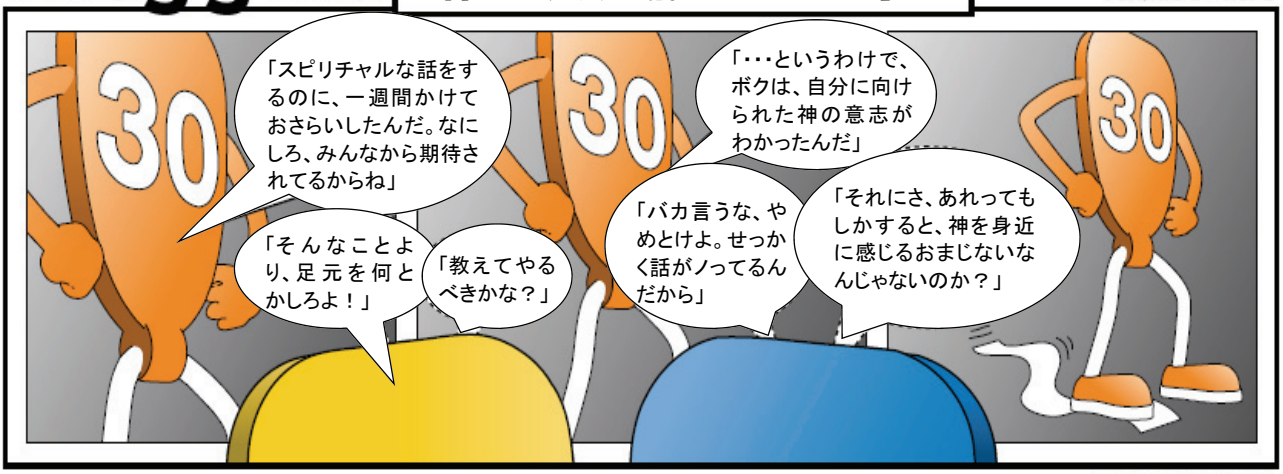
コールドターキー グループ

バザール ベルセルク バナナズ グループ

Tagged

「神なら、笑い飛ばしてくれる」

volume 1 - no. 2



Mike C – California, USA

OUR VISION

私たちの未来像

わたしたちがお互いに助け合うのは、今に始まったことではない。NAは、そういう仲間の集まりなのだ。

カンボジアのNA

カンボジアには、グループがひとつあり、首都プノンペンで週に3回ミーティングを開いている。ミーティングの出席者は、毎回平均して8～9人。メンバーのうち3人はそれぞれ単独で、よそから訪れる仲間の案内役をしている。メンバーはほとんどがカンボジア人で、つながって1年半から3年くらいしか経っていない。治療を終えてミーティングに参加するのだが、その多くが何か月かすると来なくなってしまう。

サービス機構もあるにはあるが、カンボジア全体でグループが1つしかないため、サービスをする委員会があるわけでもないし、イベントを主催したこともない。サービスを経験しているメンバーが1人しかいないのだ。文献翻訳についても、今のところは何も考えてはいない。文献翻訳にとりかかるとなれば、カンボジア人でNAのプログラムのことをよく理解しているメンバーがいてくれないことにはどうにもならないし、こちらにはまだそのようなメンバーがいないからだ。だが、それ以前に、新しくつながるメンバーのほとんどが文字を読めないのだ。そういうこともあって、これまで文献のことはあまりもちださず、口伝えでプログラムを理解してもらう方法をとってきた。だが、こちらでは今、古いメンバーが2人、カンボジアを離れることになり、残る仲間たちがリラプスした。

2009年は、カンボジアの新しい仲間たちにNAのメッセージを運ぶ努力をしたことで、最良の年になった。それによってNAの考え方を実に多くの人々に知ってもらうことができている。そういうなかで、カンボジアのNAはなんとかやっていこうと奮闘している。だからこそ、未来に希望がもてるのだ。それを心の支えにして、私たちはこのNAという仲間の集まりを続けていく。

2010年2月、アジア・パシフィック・フォーラム（アジア地域のサービス会議、日本も参加している）に提出されたカンボジアのレポートより抜粋

韓国のNA

韓国では、すでに2003年頃からNAミーティングが開かれるようになっていたものの、当時はまだ、ミーティングをきちんと続けていくことができなかったと報告されている。2009年12月に世界中でNAWSのワークショップが開かれたことにより、韓国のソウルでは英語圏のNAメンバーとの定期的な情報交換が再び行われるようになった。現在は、ソウル、仁川、釜山と、韓国の三大都市で毎週ミーティングが開かれている。どのミーティングにも、10人～12人のメンバーが定期的に参加している。ここに掲載した写真は、釜山グループの一周年を記念して写されたものだ。私たちは、こうして直接的な接触をもつことでドアが開かれていくことに興奮を禁じえない。これで、韓国のアディクトたちに翻訳文献が届くようになるのだ。こちらでは今、情報伝達と原稿の見直しや編集がやりやすくなるように、翻訳者と校正者を見つける作業を進めている。

NAWSトランスレーション　最新情報

My Ethiopian home group

I came to NA about 13 years ago. While I was practicing the steps suggested by AA, my studying led me to our fellowship. I was convinced that NA was the exact fellowship for me. Right away, we formed an NA group, the first in Ethiopia—even in East Africa. We translated our Twelve Steps and Twelve Traditions. Many addicts were attracted and started exercising the steps with the help of English NA literature, but there was no literature in Amharic, the native language of our country. Today we have two draft IPs we use that are being reviewed for production at NAWS. Most members of the group are not able to make contributions or purchase NA literature. The group has not contributed money to an area, region, or NAWS because of the economy here, where more than 98 percent of the people live in severe poverty. Our home group struggled with this for a long time; there were no other groups or individual NA members to help. Even though we are not active in donations, at least we are able to serve the NA Fellowship with our knowledge and labor.

Ananiya H, Western Harrarge, Ethiopia

NA Kenya

The NA fellowship here goes back to the 1990's when addicts who met in AA tried more than once to establish NA meetings in Nairobi. A Friday night group floundered and eventually faded off. On occasion the group would get literature from NA World Services, in the late 1990s, but there was no consistent contact, so the group and members were not fully equipped with NA resources.

Around 2003 the fellowship experienced an upsurge in membership. By then the group had registered with NAWS, which led to literature, and there were enough members to set up Wednesday and Saturday meetings. These groups didn't survive long, and they weakened the Friday meeting. Also, some members relapsed and others relocated, leaving the fellowship on its knees. By 2005 the Friday meeting was barely functional, with very low turnout. This remained the case until around 2007 when there was another round of growth and consistency in membership, leading to the start-up of a Thursday and a Saturday meeting. Neither of those meetings lasted, but the Friday meeting survived.

In 2007-2008, members agreed to reestablish contact with NAWS for literature, set up an email address for the group, and focus on strengthening the Friday meeting. Members practiced the Twelfth Step to let more addicts know that a way out through NA exists; and members fostered growth by consistently attending meetings and contributing in other ways.

Today, that same Friday night meeting that struggled to survive is the New Dawn Group. We have supported members around the country with starter kits, leading to 24 meetings in the country today. Recently a starter kit was sent to Dar es Salaam, Tanzania, and that meeting is stabilizing. Some members from Nigeria who lived here for a while went back to their home country, where NA has yet to grow roots; but we, together with South African trusted servants, have been trying to connect the scattered members in Nigeria. A group starter kit was also sent recently to Rwanda in an effort to foster NA there.

Attendance still fluctuates sometimes, but no matter what or how many we are, the doors remain open in the spirit of attraction, for we keep what we have by giving it away.

Josphat K, Nairobi, Kenya

世界中で、それぞれの国や地域のサービス機関が
NAのメッセージを運ぶために一生懸命努力している。
みんなで一緒に取り組めば、
私たちの未来像は現実のものになるのだ。

NA Maldives

- ASC formed: Male Area Committee of Narcotics Anonymous
- World Unity Day phone hookup to WCNA 33 in Barcelona
- Fellowship development event in Male and Addu
- Newcomer workshop in Addu
- NA Addu's second anniversary
- H&I service weekly at government detox centre on a nearby island
- Newcomer and traditions workshops in MACNA
- Literature shortage in southern area
- Members developing understanding of service, traditions, literature, program
- Local translations committee working on IP No.1
- Nine meetings per week including a step study meeting
- Male Area: 10–15 members
- Addu Area: 60–70 members
- Members with cleantime/service experience: 8
- Average newcomers per meeting: 1
- Two Male meetings are about 10 minutes apart (the city is only 2 km (about 1.25 miles) square).
- Addu and Foahmulah are about 20 nautical miles apart, accessible only by sea.
- Male and Addu are 750 nautical miles apart, accessible by sea and air.

Excerpted from Maldives report to Asia Pacific Forum, February 2010

OUR FUTURE
私たちの将来

第30回ワールド サービス カンファレンスのために集まる

今回のWSC（ワールド サービス カンファレンス：NAの世界会議）には、過去30回のなかで最も多くの国や地域のNAが集まる。このカンファレンスによって、リージョナル デリゲート（各国、各リージョンの代表者）たちは、ワールドボード（NAワールドサービスの理事）ならびにNAWS（NAワールドサービス）のエグゼクティブ ディレクター（各部門の責任者）やヒューマンリソース パネルのメンバーたちと心をひとつにするのだ。そして今年は、114のリージョン（アメリカ以外では、国がひとつのリージョンになっている。アメリカでは州などでリージョンになっている）がカンファレンスの席に着き、さらに2つのリージョンをゲストに迎えることにもなっている。ゲストとなるのは、デンマークとリトアニアだ。「同じNAであっても、言語や文化が異なればメンバーのあり様もさまざまである。カンファレンスでは、それぞれのNAが必要とすることに応じた議論を尽くすことにより、どうしたら世界中のNAグループに対して効果的なサービスを提供できるかという問題に取り組む」（ガイド トゥ ワールド サービス イン NA）このような目的で集まることから、これはきわめて重要なイベントなのだ。NAメンバーやグループ、サービス機関、カンファレンスの出席者は、WSC開催に到るまでの何カ月かのあいだに何千時間も費やして、いくつもの資料や案のひとつひとつに目を通し、話しあいを重ね、レポートにまとめて配布するという作業に当たる。そのようにして今回、この第30回WSCに向けて提出されたリージョナル リポートでは、まさにNAならではという目を見張るような経験が共通して分かち合われている。ここでは、その一部を2ページにわたって紹介する。

リージョナル レポートで最もよくみられた課題は、NAメンバーの関心を集めて、サービス活動に活発にかかわるようになって（そのまま活動を続けて）もらうということであった。そのためには、もう、「だれでもいいから、とりあえずやってもらう」ということはしないと報告しているリージョンもあった。このリージョンではむしろ、そのときに必要とされている仕事に、適任だと思える人を探す努力をしている。そしてまた、サービス機関に歴代の信頼されるしもべたちを招いているという報告もあった。これは、助言を与える立場であったり、眠っているようなサービス委員会に活を入れる役目であったり、何らかのかたちでもう一度サービスに関わってもらうためである。このほか、委員会にみられる知識のばらつきをなくすため、NAに長くいるメンバーたちをサービス機関に招集し、それぞれがこれまでにサービスで経験したことを伝えてもらうという報告もあった。

そして、いくつものリージョンがサービスをするメンバーの育成に本腰を入れていると報告している。あるリージョンでは、リージョンのミーティングをあくまでもリージョン運営をするメンバー育成の場としてとらえ、そこで育った運営委員たちがGSR（グループ代表）メンバーを育てるように促している。運営委員メンバーたちにはセッションプロファイルがあり、リージョンの支援を受けてリージョンのエリア同士でワークショップが開催されるようにする。その際に、エリアによっては毎回ASCミーティングのなかで30～60分を育成に充てることもある。

リージョンの活動方法にはさまざまな変化や改善がみられ、それによってこれまでよりうまくメッセージが運べるようになっているリージョンもある。そして、情報の公開と十分に話しあった上で決めることを心がけることによって、リージョンの多くが合意に基づく意思決定という方針に変わりつつある。それ以外にもいくつかのリージョンから、サービス機構の改革や方針と手順の再検討などを進めているという連絡を受けた。そして、さまざまなサービス機関が、自分たちの組織やグループ間での情報伝達を改善するために現実的な手段を用いている。具体的には、フォローアップ リスト、リージョンのウェブサイト、テレビ会議、eメールなどが役立つものとしてあげられている。

まさに、NAメンバーひとりひとりの回復が新しくつながった仲間たちに分かち合われるように、WSCでも多くのリージョンがそれぞれの経験を、NAが導入されて間もない国の代表たちに分かち合う。それが、同じ言語を話す遠い国のグループに対して、文献を寄贈するといった簡単なことや、あるいは援助の手をさしのべるところまで深くかかわることになってもおかしくない。このようなことによって、ミーティングが次々と開かれていき、新しく生まれたNAが自分たちでリージョンを結成できるようになるのだ。

NAに関する情報を伝えるのは、情報公開または広報活動の面でも基本となる。あるリージョンでは、NA全体のイベントや広報のイベント用に、NAのことがひと目でわかるディスプレイ・ボードを管轄内のエリアに提供している。また、プロフェッショナル カンファレンスに出席して文献を展示することで、世界に広がるNAという仲間の集まりにみられる多様性を示すことができ、それによってNAに関する作り話や誤解をなくす役に立ったという報告もいくつかある。ベーシックテキスト第6版、若者、親または保護者向けのIP類、サービス関連パンフレットである『イントロダクション トゥ NAミーティング』などが情報源として取りあげられたことで、NAについて「一般の理解が深まった」のだ。

自分の話す言語でなじみのある表現になっているNAのメッセージを読めるようになれば、どの国のアディクトにもNAの新しい生き方を自分のものにするチャンスがある。NA文献の翻訳は、多大な労力、時間、資金を費やすものだが、この分野での大きな成果を報告しているリージョンが少なくなかった。IP（インフォーメーションパンフレット）類の翻訳に着手したばかりのところもあれば、ホワイトブックレットの翻訳に取り組んでいるところもあり、まだ本一冊全部を翻訳するプロジェクトを進めている最中のところもある。そして、あるリージョンでは、言葉でなくても人の心には届くということに気づき、先住民のメンバーたちを対象とするパンフレット第一号を完成した。そこには、NAのメッセージを分かち合うために絵や図形によるさまざまな表現が印刷されている。

57,912 一週間のミーティング数

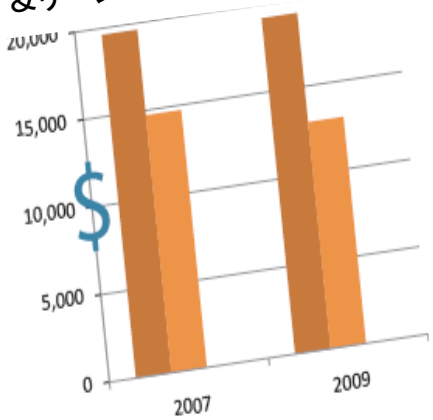
957 全世界のエリア数

114 WSCのリージョン出席数

ワールドサービスカンファレンス

「ワールド サービス カンファレンスでは、**世界中のNA**が2年ごとに毎回、同じ場所に同時に集まり、**心をひとつ**にして**経験**と**力**と**希望**を分かち合うのだ」

平均的なリージョンの諸経費
&リージョンに集まる献金**



95%
ウェブサイトがあるリージョン

管轄内のエリアにフォンラインサービス
（電話によるサービス）があるリージョン 77

69 フォンラインサービス
があるリージョンの数

42
サービスオフィスがある
リージョン

WSCでは

コーヒーの
杯数 2000+

720
指までしゃぶりたくなる、
ドーナッツの数

クリームチーズを塗った
ベーグル
864

363 フルーツの量（ポンド）

*この2ページにある資料は、2010年のリージョナルレポートから抜粋されたものである。割合(%)、平均、合計などの数字は、106のリージョナルレポートをもとに割り出されている(この内、100が出席リージョン)。＊＊ エリアやグループからリージョンに献金された額を反映。

Photos:

Mid-Atlantic Regional Learning Convenference:
Helge B, Berlin, Germany

British Columbia Fellowship Development Days:
Jim H, British Columbia, Canada

Latin American Zonal Forum: Johnny L, California, USA

Asia Pacific Forum: Ron B, Victoria, Australia
Shamik C, Kolkata, India

European Delegates Meeting: Craig R, Pennsylvania, USA

SERVICE
サービス

ジミー・Kをはじめとする創設(そうせつ)のNAメンバーたちは、「ナルコティクス アノニマスの存続と成長を確実なものにするために，サービス機関をつくること」を検討した*。こうして創設(そうせつ)まず創設者たちが確固たる意志をもって未来像を描き，それを受け継ぐ者たちが力を尽くし，さらに私たちの代になっても努力を重ねることによって、NAは世界に広がる仲間のあつまりとして知られるようになったのだ。あるときは海辺の焚き火を囲み，またあるときは公民館や教会の地下室、ホテルの会議室にぎっしり並んだテーブルを囲んで，世界中の仲間が集まってNAを献身的に支えていく。そのようなイベントが最近も行われ，そのごく一部が今月号で再現されている。

＊いくつもの奇跡が起こり、
「新しい基盤が築かれていく」

Living Clean: The Journey Continues

In response to the first round of review and input from the fellowship, Chapter One is being extensively revised and the outline has been reordered. "Living Spiritually" is now the third chapter, and the book will end with "The Journey Continues." We appreciate all the feedback from the fellowship on this new book.

Review and Input Period 1 April–30 June 2010

Three more chapters of "Living Clean" will be available for review and input 1 April–30 June 2010 ("Living Spiritually," "Our Physical Selves," and "Relationships"). When this material is released, there will be a link on the project page (**http://www.na.org/?ID=Living_Clean_Project**) for members to download the material and a link to submit input on the chapters. NA communities will want to allow enough time to review the material, as these chapters are approximately 15–20 pages each.

Your Contributions

Later this spring the two remaining chapters will be drafted. And there is still time for additional input on all of the chapters. Your input contributes to our goal of having a book that reflects our members' experience of recovery in NA. We invite you to hold input-generating workshops using the session profiles located on the project page.

Discussion Board

There are 650+ members on the Living Clean Discussion Board at **http://www.naws.org/lc/**. The discussion board allows members to contribute and participate regardless of their physical location. Members in Mumbai, India, have the same opportunity as do members in Miami, Florida, USA, for involvement in this book. We invite you to join the discussion board to share your experience, strength, and hope.

Please visit the Living Clean Project page at
http://www.na.org/?ID=Living_Clean_Project

ホームグループ紹介

NAwayでは、さまざまなNAグループからミーティング会場の写真が送られてくるのをお待ちしている。ミーティングの進行表や回復に関する文献、ポスター類、汚れたコーヒーカップなど、そこが「仲間の居場所になっている」とわかるものであれば喜んで掲載させていただく。ただし、集まっているメンバーがどこのだれとわかる写真はご遠慮いただきたい。なお、写真には、グループの名称、所在地および国名はもちろん、グループができてからどのくらい経つのか、ミーティングの形式はどうなっているか（スピーカーミーティング、全員で分かち合うミーティング、その他）など、グループの紹介文を添えていただくようにお願いする。

旗（はた）は、こっちのものだ

この写真は、ヒューストン地区にあるウッドランドズ ホームグループの会場で写したものだ。ウッドランドズ ホームグループは、ここで毎週10回のミーティングを欠かさず開いている。存続（そんぞく）年数は23年。ヒューストンで長くつづいているグループのなかで、3番目に古いグループだ。ミーティングには毎回、平均して25人のメンバーが出席している。

写真の左にあるのは、ホームグループの旗（はた）だ。ヒューストンでは、自分たちのグループの旗（はた）をもっていても、よそのグループの旗（はた）を「こっちのものにする」ことができる。だが、その代わり、旗（はた）を奪ったグループは自分たちのメンバーを5人、「旗（はた）をもっていかれた」グループのミーティングに送り込まなければならない。そして、ホームの旗（はた）を取り戻すためにはやはり自分たちのメンバーを5人、奪ったグループのミーティングに送り込まなければならない。そこでもし、10人のメンバーが行けばどうなるか。そのときはホームの旗（はた）を取り戻せるのはもちろん、相手の旗（はた）もこっちのものになる！

これは、ヒューストンの素晴らしい習慣になっている。こうやって出張サービスをすることによって、メンバーたちはよそのグループに足を伸ばすことが苦ではなくなるのだ。

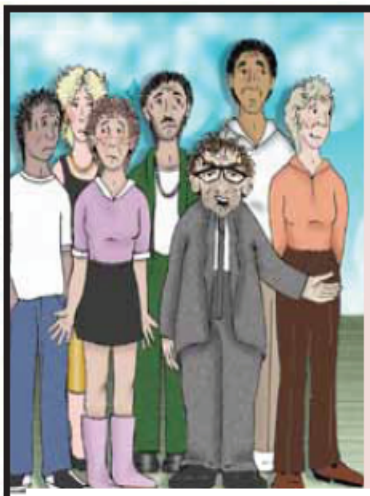
グレイ・M（アメリカが洲国／テキサス）

15年目のグループ

ボクたちのグループは、グループ・リナシミエント（リバース［再生］グループ）と呼ばれています。1994年10月19日に発足し、チリのサンチャゴでは2番目のグループとして活動を始めました。毎週、月、水、金の夜8:00にミーティングを開いています。ミーティングの進め方は、メンバーがそれぞれ、かつてどうであって今どうであるかについて7～8分ほど分かち合うというものです。グループのメンバーは12人～15人ですが、ほとんど毎回のミーティングで新しい仲間がつながっています。写真にあるミーティングの部屋は、この間みんなでペンキ塗りをして、以前よりすっきりした感じになりました。

ボクたちのグループでは、新しくつながった仲間に、歓迎のキータグと案内パンフレットを2部渡しています。そして、クリーンタイムを祝うメンバーたちもやはり、キータグを受け取り、自分が欲しいと思うIPを1部もらえることになっています。

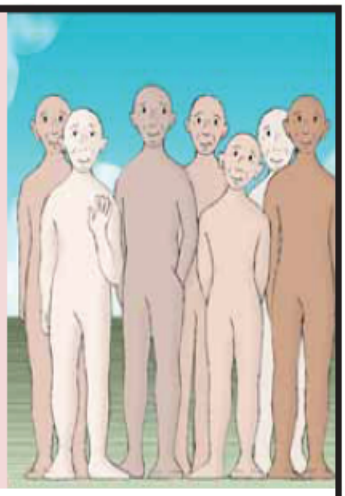
クラウディオ・V（チリ／サンチャゴ）



A New
NA Way Comic Strip

It's time for a change in
The NA Way Magazine.

Share the NA message of recovery
through your creativity and wit.



EMAIL electronic documents (AI, EPS, PDF, PSD) to naway@na.org • FAX black/white artwork to 818.700.0700, attn: NA Way
MAIL to The NA Way; PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409 • Published submissions will be © NA World Services

CALENDAR

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at: **www.na.org/?ID?=comingup-toc**. (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA *Way*; or *The* NA *Way*; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Canada

British Columbia 21-24 May; Spring Clean 30; Camp Sunrise, Langdale; 604.724.0584

Nova Scotia 12-18 Jul; Annapolis Valley Area Pig Roast and Campout 21; Blomidon Provincial Park, Blomidon; 902.692.1031

Ontario 21-23 May; Ontario Regional Convention 23; Holiday Inn Select, Windsor; 519.419.0658

Prince Edward Island 13-15 Aug; Prince Edward Island Area Convention 3; University of Prince Edward Island, Charlottetown; 902.894.3277

Saskatchewan 30 Apr-2 May; Central Saskatchewan Area Convention 24; Saint Joseph's Hall, Saskatoon: 306.652.5216

Denmark

Skanderborg 30 Jul-1 Aug; Midtjylland Area Convention and Camp; Audonicon, Skanderborg; www.nakonvent.dk

Germany

Berlin 30 Apr-2 May; Berlin Area English Speaking Convention 2; Berliner Stadtmission, Berlin; www.b-open-na.de

21-23 May; Deutschsprachige Regional Convention 27; Kfh, Aachen; www. dcna.de

Indonesia

Bali 18-20 Jun; Bali Area Convention 10; Puri Saron Hotel, Seminyak; www.na-bali.org

Israel

Dead Sea 2-4 Sep; European Convention and Conference 26; Royal Hotel Dead Sea, Dead Sea; www.eccna26.org

Japan

Kanagawa 20-22 Aug; Japan Regional Convention; Yokohama Red Brick Warehouse;www.najapan.org/minami-kanto

Mexico

Nuevo Leon 6-9 May; Convención Regional de Mexico 13; Hotel 88 Inn, Monterrey; www.namexico.org.mx

Baja California 9-11 Apr; Convención Area Baja Cachanilla; Hotel Crowne Plaza, Mexicali; 686.216.3799

Panama

Colon16-18 Jul; Panama Regional Convention 8; Radisson Hotel, Colon; www.napanama.org

Peru

Cuzco 21-23 May; Peruvian Regional Convention 16; Hotel de la villa Hermoza, Cuzco; www.naperu.org

Portugal

Porto 7-9 May; Portuguese Regional Convention 20; Seminario de Vilar-Porto, Porto; www.cp-na.org

Puerto Rico

San Juan 23-25 Jul; Region del Coqui Convencion 21; Conrad Condado Plaza, San Juan; www.na-pr.net

Spain

Andalucia 4-6 Jun; Spain Regional Convention 29; Hotel Reina Cristina Paseo Conferencia, Algeciras; 34.609.403363

Turkey

11-13 Jun; First Middle East Convention; Grand Sile Hotel, Istanbul; www.namec1.com

United States

Arizona 28-30 May; Arizona Regional Convention 24; Phoenix/ Mesa Marriott, Mesa; 480.678.0428

California 14-16 May; Greater LA Area Heart to Heart Men's Retreat 2; Camp Whittier, Santa Barbara; 213.435.5794

2) 28-30 May; San Diego Imperial Counties Regional Convention 25; Town and Country Resort and Convention Center, San Diego; sandiegona.org

3) 28-30 May; Greater LA Area Convention 5; Airport Hilton Hotel, Los Angeles; www.glaana.org/events.htm

4) 4-6 Jun; River Cities-916 North Areas Ride 4 Recovery; Sierra Bible Camp-Lake Almanor, Canyon Dam; 530.227.7625

5) 2-5 Jul; California Inland Regional Convention 12; Renaissance Palm Springs Hotel, Palm Springs; www.circna.com

Connecticut 7-9 May; Straight from the Hip Group Women's Retreat 6; Incarnation Retreat Center, Ivoryton; 203.592.3041

2) 11-13 Jun; No Mas Group Never Alone Campout 4; Camp Claire, Old Lyme; www.ctna.org

3) 18-20 Jun; Bronx Area Convention 8; Stamford Hilton, Stamford; www.bronxareana.com/bxacna

Florida 11-13 Jun; Regional Convención Latina Del Sur de la Florida. 5; Marriott Hollywood Beach, Hollywood; www.convencionlatina.com

2) 25-27 Jun; East Coast Convention 14; Florida Gulf Coast University, Fort Myers; www.eccna.org

3) 1-4 Jul; Florida Regional Convention; Hyatt Regency, Jacksonville; www.floridarso.org

Georgia 30 Apr-2 May; Little Girl Grows Up Women's Convention 2; Renaissance Concourse Hotel, Atlanta; /www.grscna.com

Iowa 2-4 Jul; Iowa Regional Convention 27; Holiday Inn Dubuque/ Galena, Dubuque; 563.564.5820; Speaker Tape Deadline/Info: 15 May/563.599.9793;

Kansas 2-5 Jul; Mid America Regional Campout 32; Lucas Park Campground, Wilson Lake; www.marscna.net

2) 16-18 Apr; Chesapeake/Potomac Regional Convention 24; Ocean City Convention Center, Ocean City; www.cprcna.org

3) 14-16 May; Baltimore Area Convention 9; Baltimore City Convention Center, Baltimore; www.baltoareana.org

Michigan 1-4 Jul; Michigan Regional Convention 26; Valley Plaza Resort/ Best Western Inn, Midland; www.michigan-na.org/mrcna

Minnesota 16-18 Apr; Minnesota Regional Convention 17; Hilton Garden Inn, Mankato; www.mnnac17.com

2) 28-31 May; Upper Midwest Region Spiritual Refreshment; Fair Hills Resort, Detroit Lakes; www.umrna.org

Mississippi 30 Apr-2 May; Foglifter's Group Fellowship under the Stars Campout; Roosevelt State Park, Morton; 601.842.6550

Nebraska 28-31 May; Nebraska Region Run For Fun 30; Alexandria State Lakes, Alexandria; www.nebraskana.org

2) 18-20 Jun; Great Plains Area Mid-Summer Nights 20; Sandy Channels State Recreation, Elm Creek; 308.293.8536

Nevada 16-18 Jul; California-Arizona-Nevada Area Convention 18; Riverside Resort and Casino, Laughlin; 863.604.0550

New Jersey 16-18 Apr; Ocean Area Convention 5; Quality Inn, Toms River; 908.814.6735

2) 28-30 May; New Jersey Regional Convention 25; Crowne Plaza, Cherry Hill; www.njrcna.org
New York 4-6 Jun; Albany-Rensselaer Area Promise of Freedom Campout 2; Camp Scully, Wynantskill; www.abcdrna.org/campout
North Carolina 14-16 May; Down East-Inner Costal-Crossroads Areas Convention 5; City Hotel and Bistro, Greenville; 252.468.8114
2) 4-6 Jun; Capital Area Family Reunion 21; Doubletree Hotel, Rocky Mount; 252.937.6888; www.capitalareancna.com
Ohio 2-4 Jul; Dayton Area Convention 8; Crowne Plaza Hotel, Dayton; www.dascna.org
Texas 28-30 May; Texas State Convention 8; Doubletree Hotel, Austin; www.tscna.org
Utah 25-27 Jun; Southern Utah Area Convention 3; Hilton Garden Inn, Saint George; 435.313.2438; speaker tape submission deadline: 15 May; www.suana.org
Virginia 28-31 May; Marion Survivor's Group Campout 14; Hungry Mother State Park, Marion; 276.646.8462;
Washington 28-30 May; Washington Northern Idaho Regional Convention 25; Doubletree Hotel Spokane City Center, Spokane; www.wnirna-reg.org
West Virginia 7-9 May; Mountaineer Regional Convention; Cedar Lakes, Ripley; www.mrscna.org
Wyoming 14-16 May; Upper Rocky Mountain Regional Convention 11; Holiday Inn, Rock Springs; www.urmrna.org

NAWS PRODUCT UPDATE

Brazilian

Institutional Group Guide
Guia para Grupos Institucionais
Item No. BR-2115 Price US $3.70

Croatian

IP No. 2: *Grupa*
Item No. CR-3102 Price US $0.26

IP No. 5: *Još jedan pogled*
Item No. CR-3105 Price US $0.21

IP No. 19: *Prihvaćanje samog sebe*
Item No. CR-3119 Price US $0.21

Danish

IP No. 9: *At leve programmet*
Item No. DK-3109 Price US $0.21

NA Groups and Medication
NA-grupper og medicin
Item No. DK-2205 Price US $0.26

Finnish

It Works: How and Why
Se toimii: Miten ja Miksi
Item No. FI-1140 Price US $7.70

Filipino

IP No. 7: *Adik ba ako?*
Item No. FL-3107 Price US $0.21

IP No. 11: *Sponsorship*
Item No. FL-3111 Price US $0.21

IP No. 14: *Ang Karanasan ng Isang Adik Ukol…*
Item No. FL-3114 Price US $0.21

IP No. 16: *Para sa Baguhan*
Item No. FL-3116 Price US $0.21

Hindi

Basic Text
नारकॉटिक्स एनॉनिमस
Item No. HI-1101 Price US $7.50

Hebrew

Disruptive and Violent Behavior
התנהגות אלימה ומפריעה
Item No. HE-2204 Price US $0.21

Indonesian

IP No. 16:
Untuk Pendatang Baru
Item No. ID-3116 Price US $0.21

www.naway.org 19

Marathi

Keytags

Welcome – Multiple years
Item No. MR-4100 – 4108
Price US $0.45/each

Portuguese

An Introduction to NA Meetings

Uma introdução às reuniões de NA

Item No. PO-2201 Price US $0.21

Twelve Concepts Poster

Os Doze Conceitos de Narcóticos Anónimos

Item No. PO-9077 Price US $2.85

Seven Poster Set

Now available to include Twelve Concepts poster
Item No. PO-9070 Price US $8.60

Latvian

IP No. 16: *Jaupienācējam*
Item No. LV-3116 Price US $0.21

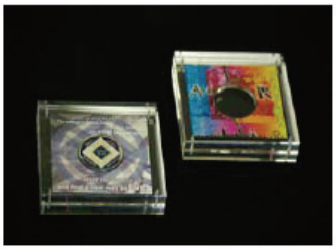
Just for Today

Gift Edition

A thoughtful gift with the title debossed in chocolate brown on a caramel-colored leatherette cover. Present and display this beautiful volume in a matching gift-box sheath
Item No. 1114 Price US $15.75

Specialty items

(limited supply)



Acrylic Medallion Holders

Stunning, crystal-clear medallion display embedded with artwork from the Commemorative Basic Text or, for a limited time, artwork inspired by WCNA 33 in Barcelona: Amor sin fronteras (or insert your own artwork). Displays front and back of medallion. ***Limited supply.***
Item No. 6099 (Basic Text art) Item No. 6098 (WCNA 33 art) Price US $25.00/each

CD-Case Calendar

Inspire love daily with this 14-month calendar (Oct 09 – Dec 10). Decorated with some favorite quotes from NA literature and unique artwork designed for WCNA 33: Amor sin fronteras – Love without Borders. ***Limited supply.***
Item No. 9500 Price US $7.00

Postcard Set

One dozen ways to share a message of love, recovery, and your own personal thoughts. This package includes twelve postcards inspired by the theme of WCNA 33 in Barcelona: Amor sin fronteras – Love without Borders. ***Limited supply.***
Item No. 9501 Price US $5.50